

今年の夏に八ヶ岳で行なわれた88いのちの祭りは、コンサート、ワークショップ、シンポジウム、そして一週間以上にわたるキャンプ・インと、どれをとっても十年に一度あるかどうかの大きなお祭りでした。同じ時期にあったアメリカ・インディアンのランニングと並んで、古いつながりを深め、新しい関係を広げて、No Nukes One Love のネットワークを張りめぐらせる役割を果たしたと言えるでしょう。ところでこの祭りは、名前のない新聞が復刊するきっかけにもなりましたが、新聞はある意味で、いのちの祭りを毎日の暮らしの中で再現し、発展させていくためのガイド・ペーパーになりたいと思っています。

さて祭りの実行委員会は9月末に解散しましたが、そのあとを受けてPeace Saving という基金が発足して、祭りの記録類の出版にあたっています。

ここでは、祭りの報告をシンポのパネラーでもあったジャーナリストの千代丸さんに、またコンサート関係の責任者だったミュージシャンの南正人さんに祭りの感想などをインタビューしました。また祭りで一番印象的だったゴミの問題をこの新聞の一つの柱にしたいと思い、連載予告を載せました。



# 小特集 祭り、 り の 家

人間としての思い、感想を聞き、時に心の奥深いところでの生活、思想なども聞いた。

「戦争も嫌、原発も嫌、息苦しいのは大きい、大馬鹿野郎にはならないぞ」と松本伸さん(東京)は、富士見の空気を胸いっぱい吸いながら、権力や理不尽なものから自由をいつまでもしっかりと守りたい、そのためにこのような「祭り」は必要といった。「煩惱の渦の核を上下に溶け合わされて、オークとオーロラをはずの花の蜜に落とされるように、今一度」(山本幸枝さん)という宗教的な、優しい声も聞かれた。「このお祭りに参加し、みなさんの思いが一つになったことが、とても嬉しいというか、いいと思いました。わたしは原爆という恐ろしいものを知らないけど、これからはそんなものはいけないと思っています。みんなで力を合せてガンバりましょう」地元の富士見町から参加した中学生の名取恵美さんはこう言った。

奄美大島の「無我利道場」からも子供たちが来ていた。人気者だった。その中の一人、万葉のメッセージは、「まわりの人々……を心から愛せますように」と、中学を登校拒否して、自由に「人間として」生きようとしている気持を表わした。

祭りが終り、人々はまたそれぞれの町や田舎に帰ったが、しっかりと強い絆ができた。さて、こう書くとも全てが良かったように思いがちだが、問題点はいっぱいあった。実を言えば、この記事もその角度からだけに絞って書くこともできる。

箇条書きに思いつくままに挙げてみると・・・  
・反原発、脱原発といくら威勢のいいことを言っても、自分たちが出したゴミや、排泄物の始末もできぬ。中には人目につかぬよう隠しているのもあったが、これは政府や電力会社の「コソソリ人目につかぬように捨てる」やりかたと同じで、こんなことでは反原発運動もおぼつかないぞ、と反省の意見がかなりあった。

・まるでレジャー気分だけの人、家族も散見された。格好だけは、オールド・ヒッピーふうだが、中身はマイ・レジャー・オンリー。  
・いのち、いのちと言いながら、子猫を捨てに来た人がいた。とても悲しいことだ。

祭りが終って4ヶ月過ぎた。あの時に知り

▼右ページにつづく

## ルポ・いのちの祭り

ボンこと山田塊也さんから「今年は、いのちの祭り88というのを長野でやるから、ぜひ来てください」という誘いの手紙をもらったのは、確か春頃だったろうか。日時を見ると空いているし、その頃になると、パネラーという話がなくても一日ぐらひは遊びに行ってみたいなと思っていた。

行ってまず思ったことは「こいつはとてつもなく雄大で、面白いお祭りだ」ということだ。きのうまでは、まったく未知の間柄であった人々が、親愛の情を込めて語り、時に議論も交わした。広大な大地は、それまでの傲慢な人間をも謙虚で慎み深い者にし、哲学的な瞑想にふける時を与えたものだった。

私は多くの人に取材した。『自由放送』のインタビューマイクを向けて、率直な感想と意見を求めた。その一部を紹介しよう。

子供たちは一体どんなことを考えているのだろうか。伸び伸びと飛び回っている小・中

学生たちの何人かに聞いてみた。子供たちは大人たちよりも、もっともっと自由で、大胆率直だった。

「この祭りに来てとても良かった」と寄せ書きした中学一年の岩下君は目を輝かせてこう言った。「ここは自然がそのままあって、いい人がいっぱいいる。反原発とか、戦争反対とか、とても重要な問題をみんなが真剣に話していたのがとても良かった。僕は戦争に絶対反対!と結んだ。「この地球に原子力はいらぬ!」と小学六年生の青山遊君はメッセージした。

大人である我々が「未来の子たちの為に」といいながらも、子供の感性をあまり信用していないところがあるような気がしていたが、ここに参加した子供たちは、みな心優しく、そして物事の本質を見抜く鋭い目を持っていることを発見した。

私にとっては、これだけでも八ヶ岳に来た甲斐があったというもので、嬉しくなった。

「親」である大人や若者たちにも、一人の

振替：東京5-8720/88記録会

## MUSIC TAPE

『 88いのちの祭り -ハイライト NO NUKES ONE LOVE』というタイトルで、いのちの祭りの熱い息吹を伝える待望のミュージック・テープができました。収録バンド等は下記の通り。なおこのテープはハイライト版で続いて本編(2~3本)を企画中です。

内田ボブ/山口富士夫&TEAR DROPS/チナ・キャッツ/カズ & NO NUKES CLUB BAND /ひのこバンド/南正人&リバー/PJ & Mars/アンナプルナ・バンド/カルメン・マキ/伊藤洋&天手古舞/サムルノリ/喜多郎/アシッド・セブン/上々台風/喜納昌吉/JAH KSK  
【定価】1800円(送料込み2000円)90分  
【問合せ・申込み】〒191 日野市本町4-20-7 田中由美子 ☎0425-84-0352又は☎03-461-3753 南

## VIDEO TAPE

お祭りの公式ビデオ・テープは、現在制作中です。来年初めには完成・発売の予定。約30バンドの音を入れながら、ドキュメンタリー・タッチでキャンプ生活やシンポ、ワークショップ、出店などもとらえています。2時間40分位で、値段は5000円前後の予定。申込み・問合せはミュージック・テープと同じ。

その他、祭りの実行委員長だったおおえさんがシンポジウムをまとめた「No Nukesの視座」(仮題)を企画。【問合せ】おおえ ☎0551-36-3957 又「脱核文化」等のシンポジウム・テープのダビング・サービスもあります。【問合せ】田中ヨミス ☎0551-36-4274

## 『ドキュメント いのちの祭り』

八ヶ岳の9日間が写真と文章で再現されます。祭り本番をはじめ、1年近い準備期間からアトのまつりまで。シンポ、コンサートはじめゴミのことも。集まったみんなの生きざまがいかの間見れるように編集しています。全128ページ、菊判変形。全体の半分がモノクロとカラーの写真で、コラム、資料もたくさん入ります。予価1800円。発行プラサード書店、一般書店発売元めるくまへる社。来年3月発行予定。そこでお願ひがあります。これはと思うスナップ、感想やコラムを送ってください。(採用した人には現物進呈) ■連絡先: プラサード書店(東京・杉並・西荻南3-15-3 ほびっと村3階 ☎332-1187)

## 祭り記録 案内

### ガイア・レビュー No.4

祭りの報告号として、ガイア・レビューのNo.4がやっとこさ出来ました。前号の倍の32頁のボリュームで、祭りに参加した約30人の感想が集められています。一部400円(送料170円)、名前のない新聞でも扱っているの、ぜひ買ってください。実を言うと、新聞の宣伝をしようと思ってガイア・レビューの編集を引き受けたら、どんどんページが増えてしまいました、2ヶ月位ほとんど掛かりきりだったのです。いやあ、楽しかった!

祭り「大田(48)さんに聞いたという又南きの「玄米の炊き方」……(Eカガバを使った)はじめて2分30秒いたらずに火を止めて30分おかし。その後また1~2分30秒。それを2回繰り返す。